

22PO-pm399

戦中戦後、混乱する医学・薬学雑誌の出版状況

○小林 力¹ (日本薬大)

(背景、方法) 日中戦争が長引き、1938年に国家総動員法が成立、学術出版活動は制限された。さらに41年日米開戦、関係者は兵隊にとられ、物資不足に大規模空襲と、戦中、戦後の学術雑誌の出版は混乱した。その様子を知るため、東大図書館で一冊ずつ開き、号数と発行日、ページ数、内容などを確認、整理する。

(結果) 1. 東京医事新誌 1877年創刊、医学雑誌の草分けであったが当局の命令により40年7月、3197号を最後に国策医事雑誌「週刊健康保険医報」と合併、「日本医学及び健康保険」と改題するも、43年11月、3359号からさらに「日本医学」と名を変える。戦後の48年、東京医事新誌は恨みを晴らすかのように番号をさかのぼり3198号として復活した。 2. 日本医事新報 1921年以来、今も続く有力誌。45年は1月まで規則正しく毎週発行されていたが、2, 5, 6月にわずか4ページのものが1冊ずつのみ。9月から月2回となり、薄いながらも原爆症や米国医学(留学者の回想記)、ペニシリンの特集あり。 3. 医学中央雑誌 今も重宝される抄録誌で、月2回の発行であったが、44年は月1回となり、45年1月の空襲で社屋全焼、休刊。46年3月に復活。44年以降の雑誌抄録も数年遅れで順次発行した。 4. 薬学雑誌 44年7月号から甲号(抄録)と乙号(原報)に分かれる。それぞれ複数号を合併させ紙節約、戦争を乗り切るも、45年甲号2, 3, 4号はガリ版、乙号は年2回しか出せず。 5. 農芸化学会誌 44年まで年12冊ずつ出すも、45年から年に0冊、2冊、0冊、4冊、6冊(1949)と、戦後の復旧も遅れた。

(考察) 紙の不足は共通だが、商業誌は合併や空襲、学会誌は戦後の投稿論文の不足にも悩んでいる。また、44年から47年にかけての冊子は触ると崩れ、帯出禁止が多かった。明治、大正時代よりも紙質が悪かったようだ。